起立歩（キリット） kiritto VOL.24

平成30年1月発行
発　行：香川医療生活協同組合
高松協同病院
発行者：院長 北原孝夫
編　集：高松協同病院 広報委員会
H　P：http://t-kyodo.com/

新年のご挨拶

明けましておめでとうございます。高松協同病院の院長の任に就き、３回目の新しい年を迎えることになりました。

本年４月以降の診療報酬・介護報酬改定に向けて、今後明らかになる様々な情報に基づいてこれからの当院及び関連事業所の医療活動・介護活動の方向性を明確にしていくことが求められます。最近は地域包括ケアから地域共生社会という言葉も聞かれるようになっています。そういう時代に至っては病気や身体障害、身体虚弱等があっても地域の中でいきいきと生活していくために、ますます生活復帰、社会復帰を目指す地域でのリハビリテーションの役割が重要となってきます。更に医師、歯科医師、看護師、介護士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、歯科衛生士、医療ソーシャルワーカー、医療事務等のチームみんなで協力することは言うまでもありません。WHOの推進する健康増進拠点病院のネットワークに参加する当院の任務として、行政関係者の方々や地域で暮らす方々と共に地域全体のＡＯＬ及びＱＯＬの向上を目指し、ヘルスプロモーション活動をいよいよ発展させていく決意です。これからも引き続き入院患者さんにはもちろんのこと、外来リハ、訪問リハ、通所系サービス等あらゆる場面でリハビリテーションの理念を地域の中に浸透させていくという当院の使命を果たしていきます。

本年も何卒よろしくお願い申し上げます。

院長　北原孝夫

あけましておめでとうございます。

昨年の病棟医療は、大きな事故もなく締めくくることができました。そして当院は地域の皆様に支えられ開院して15年がたちました。当初からある東病棟ではトイレや内装、エアコンなどの不具合も出はじめております。また、当院の若かった優秀な病棟スタッフも着実に１年ずつ年を取るため、病棟内に腰痛症が蔓延していました。そこで院内では腰痛チームが対策活動を推進して成果が得られつつあります。また、出産育児に対しても安心して働き続けられるよう労働環境も改善にも力を入れているところです。

リハビリスタッフは新卒採用での入職が毎年あるため、若いスタッフが多いのですが、昨今の看護師・介護福祉士不足のため、募集してもなかなか採用につながらないのが現状です。リハビリ看護・介護は、患者さんとともに寄り添いつつ、日常の変化に注意しながら患者さんを自宅へ・地域へ帰していく、やりがいのある仕事です。患者さんに元気になってもらいたいという、リハビリテーションマインドのある人に気持ちよく働ける環境を整えて、一緒に働けるリハスタッフ、リハ医師を募集していきたいと思っています。

地域のみなさま、本年もよろしくお願いします。

副院長　植木昭彦

2018年、新しい年を迎えました、皆様いかがお過ごしでしょうか？連携相談部長の藤原と申します。昨年４月に地域ケア部から約３年振りに相談室に復帰いたしましたが、その間にも周囲に回復期リハビリ病棟が新増設されていたり、診療報酬でいえば退院支援加算や目標設定等支援管理など地域連携の強化を睨んだものが盛り込まれたりと当院を取り巻く状況もめまぐるしく変貌しており、患者様の生活や生きがいを支えつつ経営を守る工夫が求められるとても厳しい時代に入ってきていることを痛感します。今後いかに高松協同病院としての特色を見出していけるか、「回復期リハビリ病院としての質」とは何かが厳しく問われ、私たち職員一人一人がその答えを探求していかなくてはならないと思います。私たちにとって欠かすことのできない安心安全の医療・福祉が危機にさらされている今、患者様・利用者様と寄り添いともに考えていける存在になるべく、今年も一生懸命に取り組んでいきたいと思います。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

連携相談部部長　藤原勝之

最新のリハビリ機器について

リハビリの分野では日々新しい機器が開発されています。３年前には、ロボットスーツHALを１年間試験するなど、効果のあるものは積極的に取り入れていきたいと考え日々リサーチを行っています。

当院で10月より導入しました最新のリハビリ機器を紹介します。「Honda歩行アシスト」です。これは倒立振り子モデルに基づき効率的な歩行をサポートする歩行訓練機器です。歩行時の股関節の動きを左右のモーターに内蔵された角度センサーで検知し、制御コンピューターがモーターを駆動します。股関節の屈曲による下肢の振り出しの誘導と伸展による下肢の蹴り出しの誘導を行ないます。

この機器の装着により患者様は左右対称的なフォームで歩行練習が可能になり、より質の高い歩行能力の獲得を目指します。従来の「足を強制的に動かす」ではなく、「動きをアシストする」ため、機器が小型でスマートになり静かに自然に動くのが斬新です。

また試験中ですが「上肢用ロボット型運動訓練装置ReoGo-J」を借りて効果を検証しています。主には脳卒中等の患者様対象で麻痺側上肢機能訓練が実施できます。患者様の状態に合わせて訓練内容や難易度の調整ができ、その方に合わせた訓練が行えます。

患者様の効果的な機能回復に役立てるため今後も研究を続けて質の向上を図りたいと考えています。

第24回看護介護活動交流集会

11月23日、丸亀市綾歌町アイレックスにて香川民医連 第24回看護介護活動研究交流集会が『真の要求をかたちにする看護介護の力を強めよう！』のテーマで21演題の発表、看護介護職員123名の参加で開催されました。これは毎年開催しているもので、各職場でまとめた研究を発表、交流する場としています。当院からは若年性の高次脳機能障害「見えない障害」に対しての退院支援や独居認知症利用者へのデイケアでの働きかけ、コミュニケーションツールが違う外国人との関わり等、７演題発表しました。退院したら終わりでなく、この先もずっと続く患者家族の人生に思いを馳せて支援をつないでいくことが大切だと感じました。発表後は、緊張しきりだった発表者の方々がとっても晴れ晴れとした表情を見せ、学術担当者としてもとてもうれしい限りでした。

また、記念講演では昨年の認知行動療法で大好評を博した鳥取大学大学院医学系研究科の竹田伸也先生による「認知症ケアに活かす行動療法」として、行動レンズを通して「きっかけ」「行動」「結果」をアセスメントして関わるというプロセスを学べました。認知症の方へは「困った事があったら何でも言って下さい。」よりも「何がしたいですか。」の言葉かけを求めてくださいとお話されました。今年も参加された皆さんの協力で盛況に終えることができて感慨ひとしおです。また来年以降も盛り上げていきたいと思います。

第８回たかまつ緑のカーテンコンテスト

「香川県造園事業協同組合 代表理事賞」を授賞

今年の春から病院南側で育てたゴーヤカーテンが、見事「第８回たかまつ緑のカーテンコンテスト」で「香川県造園事業協同組合 代表理事賞」を授賞し、11月21日高松市役所で行われた表彰式に組合員の堀江さんとともに出席させていただきました。市内からの応募総数148件から市長賞、日本たばこ産業支社長賞や環境保全公社理事長賞がそれぞれ選ばれました。時を同じくして系列事業所デイサービスはーもにーさんも市長賞を授賞されていました。

大西市長さんは式のご挨拶の中で、「緑のカーテンは環境に優しい、お財布に優しい、心にも優しいと３拍子揃った効果があります。」と引き続きの取り組みを推奨されていました。医療生協東ブロックのボランティア委員会組合員さんと病院職員で力を合わせ、草抜き、土の入れ替え、苗の植え付け、水やりと「手をかけ、水をやり、思いを込めて」丹念に育てたゴーヤが何度目かの授賞をされて、とても誇らしい気分になれた表彰式でした。

第15回高松協同病院

健康まつり

出あい　ふれあい　支えあい

～心をつなぐまちづくり～

11月19日㈰第15回高松協同病院「健康まつり」が開催され、今年一番の寒さのなか、950名もの地域の方々に来場頂きました。木太中学校ブラスバンドのオープニングではじまり和太鼓集団「満天」の演技に圧倒されました。キッズダンスや組合員さんのフラダンス、バンド演奏は会場が一体となり、締めの阿波踊りは大勢の方が踊りの輪に加わり大盛り上がりでした。うどん、からあげ、焼きそばなどの組合員さんが出店するバザーも早い時間に売り切れ大盛況、ちびっこたちもヨーヨー釣りやスーパーボールすくいを楽しんでいました。今年も 高松市社会福祉協議会、地域の自治会長、居場所の代表など12名の来賓にご参加頂き、地域の中で高松協同病院が認められていることをあらためて感じることができました。寒さの中、奮闘した要員スタッフ、バザー出店、舞台出演、準備に関わった方々、たくさんの方々の協力で健康まつりは支えられていることを実感します。来年はさらに職員、組合員が協力し充実した健康まつりになっていけばと思います。

ハッピーニューイヤー！ 新年のご挨拶

明けましておめでとうございます。2017年4月からリハケア部の部長をさせて頂いています、戸田と申します。

2017年度の取り組みとしては、千里リハビリテーション病院の吉尾先生をお招きして実際に患者様を一緒に見て頂きながら歩行や装具に関する指導を受けたり、HONDAの歩行アシストの導入や、ReoGo-J（上肢の反復運動をするための機械。最新のリハビリ機器についての後半を参照してください）の導入を目指してデモを行う等、機器を利用したリハビリも進めてきました。

また、売店がないという患者様からの要望にお応えして、月2回移動販売が開始となりました。

2018年は何と言っても医療・介護同時改定の年で、年度末から始めにかけては診療報酬対応でバタバタしていると思われます。改定にはしっかり対応しつつ、回復期リハの質をいかに上げていくか、を課題にいろいろ取り組んでいきたいと思います。

本年もよろしくお願いいたします。

リハケア部長
戸田 洋子

新年おめでとうございます。高松協同病院　東病棟チームマネージャーの木村です。　高松協同病院が開院して16年目になります。開院以来、地域の皆様の協力を得ながら回復期リハビリ病棟として東病棟は、主に整形疾患の患者様を中心にリハビリとケアを提供しています。近年では100歳近い方でも骨折前の生活を踏まえて手術を行い、リハビリ後自宅へ帰られる方も増えており、時代の流れや変化を感じています。

当院では、2年前に歯科衛生士が両病棟に配属され、専門的な口腔ケアが誤嚥性肺炎の予防や口から食べる取り組みに力を発揮しています。今後も、リハビリだけにとどまらず、患者様の生活の質を向上させ、地域の皆様の協力も得ながら、患者様が地域に復帰し幸せに暮らしていけるよう努力していきたいと考えています。

最後になりますが、本年もよろしくお願い致します。

東病棟チームマネジャー
木村 琴

新年おめでとうございます。早いもので西病棟ができて7年になりました。様々な方面のご支援を頂きながら入院環境やリハビリ内容など改善に努めて参りました。お陰様で近隣急性期病院を始め県内外から沢山のご紹介を頂くまでになり、感謝の気持ちでいっぱいです。最近の特徴としては、脳血管疾患で紹介される年齢が若年化している印象で、働き盛りや家族を支えている40～50代の患者様が珍しくなく、就労支援や家族支援など目標の高いリハケアの提供が求められています。また、超高齢化社会を迎え入院患者様の状況をみても老々介護、認認介護や、ひとり暮らし等が確実に増えており、退院支援の難しさを痛感しています。

地域包括ケアを念頭に、ひとりでも多くの患者様が住み慣れた地域で安心して暮らしていけることを目標にこれからも頑張っていきたいと思います。今後ともご協力ご支援のほどよろしくお願い致します。

西病棟チームマネジャー
長尾 百合子

協同病院のお正月

あけましておめでとうございます。高松協同病院では外出での初詣に出掛けられない患者様のために、お正月限定にて「協同神社」なるものが病棟に現れます。チープな神社だとバカにするなかれ。職員手作りのおみくじを引くことができ、お参りする患者様もとても真剣。季節感やユーモアが少なくなりがちな入院生活に少しでも楽しみを感じてもらいたいと思っています。